

# 電子クーポンに悩まされた下呂温泉の旅

2020.11.2~3

ヨーロッパなどで第二波のコロナ感染が広がっているが、日本は経済を回すためにゴーツートラベル、ゴーツーイートの施策を展開中だ。そんな時に母のショートステイが決まり、一泊二日の旅を決めた。出発日の時間的な制約などからマイカーを利用する近場の温泉地に絞り、以前も腰痛対策で利用した下呂温泉に決めました。旅は社会勉強、以下はその内容です。

## 1 予定通りに出発するも名古屋市内で大渋滞に巻き込まれる

母を東和荘さんに預けて9時30分頃にスタート。名古屋高速は一宮へ向かう路線が工事中は承知していましたが、小牧へ向かう路線はOKでしたので、知多半島道路から名古屋高速へ入りました。しかし、少し走ると工事のため高速を下ろされてしまいました。そこからはこれまでに経験した事のないくらいの大渋滞でした。でもどうすることもできず、そのまま小牧まで我慢するしかありませんでした。

小牧を抜けて少し先のコンビニでコーヒータイムにして、やっと休憩することが出来てホットしました。その先は順調で一般国道とはいえ、スイスイ走ることが出来気持ちも落ち着きました。車の運転は何と言っても順調に走れることが大切なことです。そうでないと、どうしても気持ちが落ち着かずイライラして事故につながりかねません。

## 2 ランチは「朴葉寿司」

大渋滞のおかげで美濃白川の道の駅に午後1時45分頃に到着し、楽しみにしていた昼食タイムです。ここではレストランで食べるのではなく、朴葉寿司を食べることを楽しみにしていました。早速、店内をぐるぐると見て回りましたが見当たりません。これは聞いた方が早いと店員さんに尋ねると、冷蔵庫の前に案内してくれました。なるほど、生ものなのでお菓子などと一緒には並んでいなかったのです。



妻と二人、朴葉寿司とお茶をそれぞれ購入して車に戻りました。気の利いたレストランではないものの、マイカーは自分たちだけのお城みたいなもの。早速ぱくつきましたが、実に美味しい。写真のようにおにぎりに漬物が乗っているだけですが、寿司飯の味付けはお酢と砂糖の味が絶妙で何とも言えません。私が朴葉寿司のファンになったのは、現役の頃に岐阜県出身の同僚が家で作ったものをごちそうしてくれた時からです。それ以来、朴葉寿司の素朴な味に惹かれてしまいました。

今ではこれらもインターネットでお取り寄せが出来ますが、我が家ではほとんどお取り寄せはしません。やはりその土地の名物は、その土地でいただくから生活の中から生まれた味を感じるものだと思います。少し遅めのランチでしたが、朴葉寿司を食べることが出来たので渋滞のイライラもすっかり忘れて下呂温泉に向かいました。

### 3 下呂市の沿革

下呂市は平成 16 年(2004)に 4 町 1 村(下呂町、荻原町、金山町、小坂町、馬瀬村)が合併して発足しました。市名は公募から「下呂市」「益田市」「南飛騨市」が選定され、合併協議会の投票により「下呂市」に決定しました。人口はこの地域では 1950 年ころは 50,000 人が、下呂市になった時は 40,000 人ほどでしたが、今は 30,600 人ほどです。東浦は 50,000 人ですから小さな市と言えます。

下呂市は飛騨地方で唯一分水嶺の南側にある街で、面積の 90%は森林です。市域のほぼ中央を一級河川の飛騨川が流れ、その流れに沿って JR 高山線と国道 41 号線が貫いています。この飛騨川では過去に大雨による大災害が発生しています、今年も国道 41 号線の何か所かで大雨による濁流に川岸が削り取られて、今も復旧工事が行われています。幸いなことに名古屋から下呂市までの間は、問題なく通行が出来ます。

### 4 日本三名泉の一つ下呂温泉とは…

下呂温泉の発見については……下呂の温泉街から 4km ほど離れた所に、湯ヶ峰という海拔 1,067m の山があります。この山は 10 万年前に噴火した火山と言われ、下呂温泉はこの湯ヶ峰の頂上付近で平安時代中頃に発見されました。しかし、鎌倉時代中頃に突然温泉が出なくなりましたが、現在源泉地といわれる飛騨川の河原で発見されました。この発見にはシラサギ伝説として今に伝わっており、シラサギが河



原に降りた事から見つけたといえます。そして、シラサギが帰って行き中腹の松にとまり、その松の木の下に薬師如来が鎮座していたといえます。

その薬師如来を安置するために湯島薬師堂が創建されました。寛文 11 年(1671)に禅昌寺和尚を中興開山に迎え、医王靈山温泉寺として再興したといえます。

そして温泉の泉質はアルカリ性単純温泉で、リュウマチ、神経痛、疲労回復などに効能あり。その評判が各地に広がっていき、室町時代の末期延徳元年(1489)には、全国各地を紀行した京都五山の僧、万里集九も下呂温泉を訪れてその名泉ぶりを讃えています。彼は詩集「梅花無尽蔵」のなかで、全国に靈湯があるがその最たるものは、草津、有馬、飛州の湯島(下呂)と記されています。この万里集九については生路の常照寺の住職が、薬草の木を大事にしていたが困った人の頼みを聞いて折って与えた、ということの名所図会で学び知りました。

さらに、江戸時代には儒学者の林羅山も万里集九と同様、下呂温泉が名湯であることを伝えています。

### 5 武川家の菩提寺「温泉寺」にお参り

下呂市に午後 2 時 45 分くらいに到着、ホテルにチェックインする前に温泉寺にお参りしました。このころには少し雨が降っていましたが、そんなに強い降り方ではなく気にはなりません。事前に場所は確認していましたが、現地ではなかなか分かりづらいものです。観光案内の看板のあるお店を見つ

けて、訪ねるとほぼ近くに来ていました。

車を止めて少し歩くと、地蔵堂から長く続く階段は見上げるほどで、173段の階段の先には山門が見え



ます。階段の両側は墓地になっていますが、その中には**蝦夷地開発に尽力した武川久兵衛**のお墓があります。

四代目久兵衛が元禄13年(1700)に「飛騨屋」を開業し木材業を始めました。その2年後に北海道松前に渡っています。

北海道の根室、厚岸、クナシリ島で最初に交易を行った商人は飛騨屋の武川久兵衛です。松前藩は、飛騨屋に借金があったため、借金返済の代わりにクナシリなどとの交易権を飛騨屋に与えたといえます。



久兵衛は木材の伐採搬出事業に加えて、蝦夷の海産物と内地の産物との交易事業を92年間にわたり行いました。北海道の開発に先駆的な役割を果たしたばかりでなく、松前藩の財政運営や江戸時代中期の日本経済の発展にも大きな功績を残しました。

つまり、下呂市を代表するだけでなく北海道開発の日本を代表する人だったのです。……大変勉強になりました!

## 6 下呂を代表する「龍の瞳」

ホテルの食事はもちろんおいしかったです。仲居さんに教えていただいたのはお米のことです。粒の大きさはコシヒカリの1.5倍。甘みと粘りにたけ、冷めてもおいしい。新品種は偶然発見したことに始まり「いのちの壺」と命名され、その後「龍の瞳」という商品名で下呂を代表する特産品になりました。今では全国に名をとどろかせるブランド米といえます。

価格は1kg1,157円～と言いますから、普通に売られている10kgだと11,570円以上となります。我が家がいつも購入しているお米は10kg3,000円ですから、約4倍もします。さらに、2013年には独自の栽培基準を設けた新商品「銀の朥(みかづき)」が誕生しました。

夕食では飛騨牛、松茸を少しだけ口にすることが出来ました。飛騨牛のすき焼き、松茸の土瓶蒸しは普段口にすることはできませんから、もちろん美味しかったです。また、飛騨牛のトマト煮込みはこれも美味しかったです。しかし、みそ汁は普通のミックス味噌でした、これには少しがっかりしました。やはり味噌は赤みそが一番ですから。

## 7 ゴーツートラベルの「電子クーポン」に悩まされる

今回の旅はJTBのネット予約でホテルを予約しました。宿泊料金が35%割引になると、地域クーポンが15パーセント分もらえます。この地域クーポンには2種類あって、紙のクーポンと電子クーポンがあります。予約したJTBは電子クーポンでしたので、事前に取り扱い方をチェックして説明資料も印刷して持参しました。

ホテルのフロントで電子クーポンについて確認して、ホテル売店でお土産のお菓子を買えばよかろうと思っていました。でも、大きなホテルなのに電子クーポンは使えないというではありませんか。これにはびっくりです、そのため電子クーポンの使えるお店のリストはないのか尋ねると、それもないというのです。大手のホテルでも分からないとは、今回のゴーツートラベルはどうなっているの？

しかし、JR 下呂駅前のお土産店は下呂で一番の大手なので、ここなら間違いなく使えるとのことでした。そのため、翌朝に川沿いを散歩しながら駅前までいきました。この辺りの飛騨川の川幅はかなり広く橋の上から眺める山々と街の風景は、美しいの一言に尽きます。お土産店に入り初めに電子クーポンが使えることを聞くと OK でした。ヤレヤレです、安心して土産品を選びました。

そして、支払いになりスマホをかざして電子クーポンで支払うとしましたが、QR コードを写しても次の画面がうまく呼び込めません。そこでお店のお姉さんに操作してもらい何とかできました。でも、クーポンの金額を一部残して美濃白川で使う予定をしていましたが、これはヤバイのとお姉さんの「残りも当店で買い求めてください」の一言で、全額をこのお店で買うことにしました。何せクーポンは 8,000 円ありましたから有効活用しなくてははいけません。

## 8 下呂合掌村と朝市の見学

ホテルに戻り車で合掌村へ移動しました。白川郷の合掌造りの家は見学したことがあります、ここの建物は御母衣ダム建設で湖底に沈む運命だった家を移築したものです。国指定重要文化財「旧大戸屋住宅」をはじめ 10 棟の合掌造りの民家で集落を再現しています。



国登録有形文化財の旧岩崎家、旧遠山家もあり内部を公開しています。旧大戸屋住宅は大野郡白川村から昭和 38 年に原形のまま移築しました。特徴は釘やかすがいをまったく使わず、縄やネソという木材で組み立てられています。建物の大きさと独自の構造は、大家族制度を代表する合掌造りの建物です。

一説では、平家の落ち武者が奥飛騨の白川郷に住み着き、編み出した建築方法と言われます。

ほかには市内に残る円空仏を展示して、円空について紹介する円空館があります。私は残念ながら円空の作品が立派なものなのかどうか、よく分かりません。粗削りな仏の姿はそれなりの魅力はありますが、彫刻として見るとどうなのかな？

合掌村の入り口に朝市の小屋がいくつか並んでいます。朝市と言うもののお昼までは店を開いているようです。私はてっきり地元の野菜などが並んでいるものと思っていましたが、お土産屋さんの集まりでした。ここでは、さるぼぼのストラップとお風呂に入れるサイコロにしたヒノキを買



合掌造りの 2 階から見た下呂市街

いました。これでお土産もすべて買ったので、下呂温泉での予定は終了です。

## 9 金山町の「玉龍寺」に立ち寄る

旅に出る少し前に雑誌で玉龍寺の記事を見ました。下呂へ行く途中には奇岩怪石で形成される中山七里などの名勝のほかに、玉龍寺が紹介されていました。京都から移植したという100本を超える5種類のモミジが境内を赤く彩るという説明に、お堂と赤いモミジの写真が載っていました。



時期的に少し早いとは思いつつも初めから立ち寄るつもりでした。地図で調べて場所は分かっていましたが、国道から分岐する地点は分かりづらいのでナビに入れて出発です。

道路地図とナビを見ながら走り、12時40分ころに到着しました。境内の案内板を見ると金山町指定文化財としてたくさんの方が書かれていました。玉龍寺は釈迦如来を本尊とする臨済宗妙心寺派の寺で、江戸初期、飛騨高山藩主だった金森長近が再興したとあります。長近は京都で没したが後三代の遺骨を当寺に納め、一族三代の石碑が建立されたと記されています。



指定文化財の中で目に留まったのは山下道安の石碑。山下道安は尾張藩で5,000石を領し、名古屋城の築城の献策、名古屋市街の区画整理などに功績があった。もう一人が、加藤素毛で彼は幕府の遣米使節に加わり、日本人として初めて世界一周を果たした…と記されていました。このような歴史はその地でないと分からないものです。

そして、モミジの色づきはほんの少しでしたが、緑のモミジも美しいです。新緑のころと紅葉の盛りにはとても美しいだろうと想像しました。

これですべての予定を終えて、帰りは名古屋高速を避け、東海環状自動車道に入り快適に走行できました。